

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792200016		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム なでしこ 1階		
所在地	福島県岩瀬郡鏡石町高久田136番地1		
自己評価作成日	平成30年9月17日	評価結果市町村受理日	平成30年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつまでも出来る事は自分の力で生活していける様自立支援を頭に入れ対応しています。また、本来は家族様と暮らしたい、自分の家で過ごしたいという方がほとんどですが、それが叶わず現状を受け入れ、耐えている入居者様が、少しでも楽しいと思って頂けるよう、あたたかい雰囲気作りや笑いを大切にしています。スタッフ同士が仲良く楽しくをモットーにしており、スタッフも家族のような気さくな人ばかりです。地域との関わりを深めて行く為に、現在ホームよりオレンジカフェやアーサーサロンに出向いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 管理者や主任を中心に職員同士のコミュニケーションが円滑に図られており、全職員が利用者本位のケアに努めている。職員のやさしい笑顔と生き生きした行動に利用者の表情も明るく和やかな雰囲気の事業所である。事情により夜勤職員が少なく、管理者も週に2回の夜勤をこなしながら、全職員の協力のもと、円滑な事業所運営に努めている。

2. 行政担当者の定期的な運営推進会議への出席が得られており、事業所の実情を伝えていく。また、事業所は毎月行われる行政等が主催する会議への参加をする等、協力関係を築くように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年に1回見直し、又年度末には振り返りと反省をしながら毎朝の朝礼時唱和をして職員間での共有、実践につなげている。	事業所の理念は玄関と事務室前に掲示してある。毎朝、朝礼時に唱和しており、職員間で周知されている。職員は理念を理解し、日常業務の中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を回して頂くことにより地域の情報を得ながら繋がりを持てるようにしている。	自治会に加入し、お祭りの際に子供神輿の訪問がある。また、地域のサロンやオレンジカフェ等に利用者と参加したり、事業所行事の際にハーモニカ・唄・舞踏・三味線等のボランティア訪問もあり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の会議やホームでの会議を通じて認知症の理解や事業内容を周知して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議出席者に新たに各階の家族代表の方にも出席して頂き、2名の入居者様も加わり委員の方々等からの意見を頂いている。	運営推進会議は、定期的開催されている。事業所から状況報告（現状報告、事業所行事等）をし、委員から質問や意見が出されている。職員の名前が分からないとの意見を受けて職員の顔写真を付けた職員案内を掲示する等、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護保健事業計画等策定委員会また毎月の鏡石町の会議等にも参加し住民との関わりを持っている。	行政担当者へは、日常的に介護保険の認定更新手続きや事故の報告をしている。また、毎月、行政・社会福祉協議会・介護事業所が集まる会議へ管理者が参加したり、運営推進会議に行政からも参加があるため事業所の状況を把握し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年6月から身体的拘束適正化委員会が発足しホーム内で委員の方を中心に話し合っており、職員全員が実践している。	身体拘束等適正化の指針を作成し、法人内研修会に定期的に参加している。また、3カ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束チェックシートにより、身体拘束をしていないか確認している。職員の見守りと対応で玄関の施錠は夜間のみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の入居者様の表情や様子観察を行い、又は入浴時等の身体確認等、職員間での情報共有を行い、虐待が無いよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加した職員が会議の時に伝達を行い理解できるようにし、また活かせるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、不明な点や疑問な点がない様に理解して頂けるような説明し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は面会時等に伺い、管理者と職員間で話し合い、少しでも反映できるようにしている。	家族の面会時・電話連絡時・運営推進会議出席時に利用者の状況を伝え、家族の意見や要望を聞き取り対応しているが、意見・要望が反映されなかった場合の理由や対応状況の説明が不十分なため、苦情に繋がっている場合がみうけられる。	利用者・家族からの意見や要望があった場合は、反映されなかった理由や工夫して取り組んでいる経過を説明し理解を得て欲しい。また、家族が集まり意見交換出来る場があれば、さらに良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談やスタッフ会議等意見や提案を聴く場を設け反映できるように努めている。	日常業務・スタッフ会議・個別面談等の中で職員の意見や要望を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	受講料の補助制度があり、各個人のスキルアップに向けて各自向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修等、シフト調整を行いながら知識の向上や技術の向上を身に付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催のオレンジカフェに職員も参加。行政の方、同業者の方、地域の方との交流を図りながら質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時、本人からの要望、不安なことなど耳を傾け信頼関係を築けるよう、また事前にホーム見学をして頂き安心してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様面会時など、不安や要望を話して頂ける環境づくりに努め、常に耳を傾け対応出来るよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の不安を少しでも取り除き、本人とにも必要なサービスを提供できるよう、また信頼関係を築けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を活かせるたたみものやホーム内の飾り作り等手伝って頂いたり、カラオケを皆様で楽しまれたりと共に生活をしているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回お便りを出したり、面会時の近況報告をして、本人の生活を穏やかに暮らして頂ける様な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親族など面会に来て頂いて居室で話を頂いたり、馴染みの理髪店、食事やドライブなど支援に協力して頂いている。	家族・友人・知人が訪ねてきた時には、居室等でゆっくり歓談できるよう配慮をしている。また、家族と行き付けの床屋や墓参り、親族の結婚式・法要、温泉等に出かけたり、外泊する等馴染みの関係の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員は入居者様に目配りをして、声掛けホールに誘導したり、自由にまた他者様との関わりが持てるよう支え合うことが出来るような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居になった場合など、ここでのご本人の様子や状況などを報告、または随時電話での相談なども受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの今までの生活歴や性格等の把握を含め情報提供して頂き職員全員が意向など共有できるようにしている。	利用者との会話や行動や表情から、思いや意向を汲み取っている。また、スタッフ会議等で、利用者の思いに添った支援を検討し、ケアに活かしている。職員の支援が困難な墓参りや帰省・外泊等は、家族の協力を得て実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報収集に加え、出来る事は行って頂けるような環境作りをして安心して暮らして行けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活行動パターンを全職員で情報共有しながら会議などの話し合いを通じて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケース会議の中で、本人やご家族の意向などを反映できるようにモニタリングを通し、介護計画書の見直しなどを行い、状況変化などの見直しを行い作成している。	利用者・家族の思いや希望、利用者の身体状況をもとにスタッフ会議で検討し、職員の意見を取り入れ、一人ひとりのケアプランを作成している。モニタリングは3ヶ月に1回行い、状況などの変化に合わせて利用者家族の意向や希望を確認しながらケアプランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録に個別記入をしながら、変化や気付いたことなど職員間で申し送り時など情報共有を行い見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の様子から新たなニーズが必要であれば確認しながら新たな支援やサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加、またはボランティア、理美容院、病院等本人が必要とする地域の人々の力を借りている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を伺い、かかりつけ医に協力して頂き通院されている施設での様子などをその都度伝えながら関係を築いている。	利用者と家族の希望に応じ、かかりつけ医を継続受診できるよう支援しているが、殆どの方が訪問診療を希望している。受診結果は「病院診断・服薬記録」に記載し、職員間で共有している。また、毎月受診結果と健康状態を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携訪問看護来訪時に日々の体調面での相談・助言を頂きながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者と密に連絡を取り合いながら本人が安心して治療に専念できるように、また退院後のケアについても話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に確認し本人やご家族の意向を伺っている。施設での対応方針の説明を行い、話し合いを行いながら出来る事の支援を行っていく。	契約時に、重度化や終末期の対応について、事業所でできる支援内容を指針により説明し、理解と同意を得ている。また、終末期の看取り等についても家族等の意向確認を書面で確認している。法人で看取り介護に関する研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練や救命救急法訓練を実施しながら、発生時の確認は定期的に行い、対応できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域や行政の方などに避難場所の確認、また消防署立会のもと避難訓練を年に2回実施している。	消防署立ち会いで、年2回の総合防災訓練を実施している。今年は、運営推進会議委員の協力もあり、行政・地域・家族の参加も得られた。また、消防機器操作訓練や緊急時リレー通報訓練等も実施している。非常時用備蓄は、水・缶詰・レトルト食品や保温用具を準備している。	火災・地震・風水害時等に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身につけられるよう、避難誘導訓練を数多く実施することが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個々の生活歴や人格を尊重しながら、声掛けし、排泄時やオムツ交換時などプライバシーに気を付けている。	法人で認知症ケアに関する研修会を実施し、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。個人情報に関する書類等は書庫で施錠管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での出来る事出来ない事への声掛けを行い、自己決定を促しながら施設内での装飾や洗濯物たたみなど確認し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望んでいる事を一日のペースを把握し、声掛けしながら毎日を穏やかに過ごせるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの衣服選びや訪問理容を利用する際、本人の希望を受け入れながら身だしなみを整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	毎月の行事食に力を入れており、職員のアイデアで喜んでいただいている。麺類やカレーライス、天ぷらなどの提供もあり、食に対しての楽しみは持っている。	食事は、湯せんで温めるチルド食品の配食サービスを利用している。月に1回、季節に応じた行事食（流しソーメン・ちらし寿司・芋煮会等）の提供をしたり、チルド食をアレンジしたり、誕生日には手作りケーキで祝い、利用者に喜んでもらえるよう努めている。後片づけやテーブル拭き等、利用者に手伝って頂くよう努めている。	食事は、重要な活動の一つととらえ、利用者と職員との関係づくり等、「食」を通した様々な取り組みを活かすよう、チルド食以外にも利用者の好みを取り入れた食事作りが望ましいと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記入し把握し、食事形態やおかゆ、トロミなど必要に応じて対応し、体重の増減等に気を付け支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各入居者様に声掛けし実行している。義歯を使用している入居者様は洗浄を確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、排泄の声掛けを行い トイレに誘導している。おむつの方は訴え時やその方に合った時間で交換介助を行っている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、時間を見計り声かけや誘導を行っている。殆どの利用者が自分でトイレに行き、排泄ができています。失敗した場合は、居室で羞恥心や自尊心を損なわないよう介助支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄の有無を確認し、間隔が空く場合は下剤の使用を行っている。また日頃の水分摂取量の把握や、適度の運動を行って頂くよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望を伺い、体調確認後着替えの服を選んで頂いたり 好みの湯の温度調節など各個人に沿った入浴支援をしている。	本人の希望に沿った入浴を心がけている。季節の菖蒲湯やゆず湯、入浴剤等で入浴が楽しいものとなるよう取り組んでいる。入浴を好まない利用者には、言葉掛けを工夫したり時間をおいて声掛けする等しながら入浴して頂けるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムや、その日の状況を見極めに入居者様の希望を聞きいれながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬に関する情報は、ファイルに集約しすぐに閲覧できるよう管理している。症状の変化の際には記録を残し申し送りも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の能力に応じて、洗濯物たたみや拭き掃除などの役割を担って頂き、CDを聴いたり個々の好みに対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と一緒に買物に出掛けたり、行事の際バスで外出する機会を設けている。また地域の認知症カフェへの参加も行っている。	定期的に、オレンジカフェやエコカフェに出かけ、買い物等の外出支援をしている。また、行事で花見やアヤマ鑑賞等で近隣公園や景勝地に出かけている。家族と結婚式や法要・温泉・墓参り等外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が望まれる外出支援を行い、購入して頂いたりしている。また、家族には毎月便りと一緒に小遣いの内訳の報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、いつでも電話が使用出来る状態にあり自らかけられることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には入居者様と職員の共同作業の飾りつけがあり、常に温度・室温管理を行っている。音楽を好まれる方が多い為CDを聴きながら穏やかに過ごされている。	共用スペースはゆったりした広さで、ソファ、テーブルが配置され、温度・湿度管理と採光に配慮した生活空間となっている。壁面には、季節に応じた共同作品や行事写真を飾り居心地よく過ごせる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、居室で過ごされたりまた 談話されたり音楽を聴いたりと思い思い自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家族と話し合いながら馴染みの物を居室に置くことによって、その人らしく落ち着いて生活出来る空間作りに努めています。	備え付けのベッドや家具等は入居時に利用者・家族の希望に応じた配置としている。居室には、テレビ・ラジオ・整理ダンス・椅子・形見のテーブル等なじみのものを持ち込み、壁面には、自作品や家族写真等を飾り、その人らしく暮らせるよう配慮されている。各居室には、温度・湿度計を設置し管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同空間や居室には手すりを設け、居室には名札を付け、自らが安全に自立した生活が送れるよう支援している。		